

神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総 括

ACクラブ発足後16年が経過した。平成13年度の新入会員は6名(男3名,女3名)である。

検診項目別にみると男性では消化器と肺の検診者が71.2%,肺のみ24.4%。女性では消化器と子宮,乳の検診者が64.4%,消化器,肺,子宮,乳の検診者が18.8%である。昨年同様各検診共受診者数の減少が続く。

年齢階級別にみると男性は60歳代後半が最も多く,70歳代前半,60歳代前半がこれに続く。女性では60歳代前半,60歳代後半が多く,60歳代が45%を占める。新入会員がすくないため会員の高齢化が目立つ。

付加検診の利用者は226名で,この検診も昨年度から減少の傾向が続く。要再・精検者は54名,23.9%であった。

オプション項目であるPSAによる前立腺スクリーニング検査の受診者は39名。精検の対象となるPSA値8.0ng/mlを越えるものはみられなかった。同じくオプション項目骨粗鬆症予防検査受診者は26名。

本年度のACクラブの検診での発見がんはない。

消化器がん検診

ACクラブの受診者のうち消化器検診として上部X線検査を受診したのは237名である。要内視鏡検査となった21名のうち20名が検査を受け,胃ポリープ7名と胃潰瘍3名が発見された。胃がんは今年もいかなかった。

腹部エコー検査の受診者は男173名,女135名の計308名である。対象とする臓器は,胆のう,肝臓,腹部大動脈,膵臓,及び左右の腎臓と脾臓である。

各臓器のエコーによる描出率は良好であり,胆のうポリープ54名,胆石症17名,肝のう胞59名,脂肪肝55名,腎のう胞80名,腎結石及び石灰化80名など多数の良性所見を認めたが,肝血管腫12名の他各臓器とも腫瘍は認めなかった。しかし,大動脈瘤1名に加え,大動脈石灰化106名,大動脈蛇行6名など受診者の高齢化を思わせる所見が目立つ。

便潜血反応検査による大腸がん検診は男179名,女147名の計326名が受診し,潜血反応陽性者は19名(5.8%)であった。大腸内視鏡と注腸X線検査の同日併用による大腸検査の受診者は18名で,大腸がんはなく,大腸ポリープ10名(55.6%)であった。

肺がん検診

喫煙というのは年齢と共に減っていくものなのか。この5年間会員の喫煙率は減り続けていて30.9%。会員の高齢化現象に比例している。少なくとも肺気腫や

冠動脈硬化を認める以外の人にはとくに禁煙をすすめては来なかった。

単独の臓器としては肺が最も多いのは従来と変わりなく男性の喫煙者である。本年度に肺がん例はなかったが20年来の会員でルーチンとしているヘリカルCTでがんを疑わせるスリガラス状陰影を認め6ヵ月後に陰影の変化により上葉切除術施行。乾酪病巣と判明した。当然であるが超早期のみならず,結核であってもあてはまることが証明し得た貴重な例である。細胞診では判定上クラスCが激減している。

乳がん検診

初回受診者は2名,再検者は125名である。精検及び半年以内の再検者は2名。穿刺細胞診,試験切除の対象者はなかった。今年度はがんの発見はなかった。

ACクラブ発足時の昭和61年度に初回検診を受けた94名のうち22名が平成13年度に受診し,そのうち11名が16年間連続受診している。昭和62年度初回受診の81名では28名が平成13年度に受診し,うち11名が15年間連続受診している。平成1年度に初回受診の20名では5名が平成13年度に受診,うち3名が連続受診している。平成3年度に初回受診の15名では7名が平成13年度に受診し,うち3名が連続受診している。

ACクラブ発足後16年間の乳がん検診受診者実数(会員数)は363名で,延観察数は2,434名,発見乳がんは10名,がん発見率は0.41%(乳がん数/延観察数)である。

子宮がん検診

平成13年度の子宮頸がん検診受診者は105名であった。このうち93名が同時に子宮体がん検診を受診した。

頸部細胞診の結果,4名が要再検となった。このうち2名は精検結果で子宮頸部異形成と確定されフォローアップしている。1名は老人性膣炎像と共に軽度の異型を認め,エストロゲン治療後の再検となったものである。

検診時の内診で子宮筋腫を1名認めたが,エコー検査の結果経過観察となった。

体がん検診からは要再検者は1名も出なかった。

関係の集計表は129~131頁に掲載